愛知県高齢者生活協同組合　２０２０年

たより

１　月

第２１７号

＜発行＞愛知県高齢者生活協同組合・本部事務局

〒４６０－００２１　名古屋市中区平和２－２－３６
電　話　０５２－３３１－４８５３　　ＦＡＸ　０５２－３３１－２７３５
ホームページ　http：//aichikoreikyo.web.fc2.com/

●もくじ●

新年のあいさつ、抱負
理事長新年あいさつ/守山/歌声喫茶えのき/春日井/一宮/パソコン教室/かけはし花＊はなカフェ　・・・・・1～5
東海・関西ブロック 協同労働推進会議報告 ・・・・・・・・・・・・・・6
2019全国集会in kanagawa・・・7
あるおじいの沖縄戦　・・・・・・8

今年の表紙は、春日井市の組合員、梶田真弓さんから送られた、とても優しくかわいらしい絵手紙。なかよしねずみの親子です。梶田さんの絵手紙は中日新聞の投稿欄にも、度々掲載されるそうです。

明けましておめでとうございます

愛知県高齢者生活協同組合
理事長　長谷川　勝彦

組合員の皆様、令和初めての新年をいかがお迎えになられましたか？

職員一同、利用者さんに心のこもった介護を、良い仕事の中心にすえ取り組んでいます。「衣食足りて礼節を知る」ではありませんが質の高い介護提供には、働く職員の確保と十分な研修があって、初めて実現出来ることです。

しかし厚生労働省は、福祉サービス事業者の懸命な努力を無視して、介護保険制度の次期見直しが進められています。最大のポイントは、①ケアプランの有料化、②要介護１・２の生活支援を介護保険から外し、総合事業に移す、③利用料の見直し、二割から三割負担者の拡大。

高齢者生協は制度改悪の中で、守りだけでなく変化を作り出すことをめざし、春日井ぬくもり事業所で小規模多機能型居宅介護事業の立ち上げに向けて、二〇二〇年度は具体化に入っていく決意です。

軍事費より福祉に、消費税一〇％より大企業や富裕層から税金をとり、福祉、教育、子育て、医療にまわせの一大国民運動を巻き起こそうではありませんか。

「桜を見る会」をみても、国民を無視した安倍長期政権の腐敗を国民の手で正そうではありませんか。

おめでとうございます！

守山あまこだから

よろしくお願いします！

一〇月二七日(日)、守山あまこだにて「えのきの家五周年 秋祭り」が開催されました。

昨年は台風の影響もあってお祭りが中止になってしまい、大変残念な思いをしましたが、今年は素晴らしい晴天に恵まれ、五周年にふさわしい好日となりました。

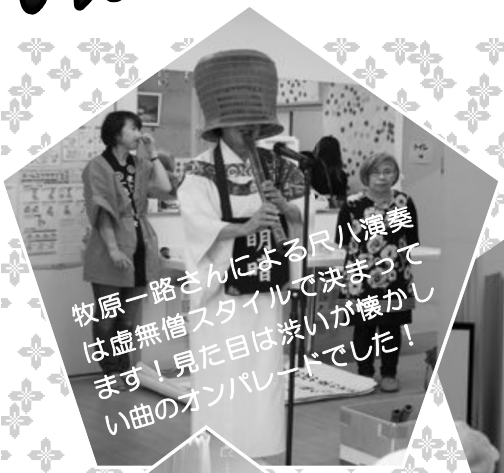
当日の来場者は、なんと過去最高の一五〇名！デイサービスえのきの家のフロアに、あふれんばかりの人が！

おかげさまでたくさんの方々の笑顔を見ることができました。

利用者さんの中には、このお祭りを心待ちにしてくださる人も増えました。ワクワクとした気持ちを少しでも持ち続けていただけることは、私たちにとって最高の喜びです。今後も温かい居場所づくりに、より一層努めていくための、なによりの励みになりました。

ご協力していただいた皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。

守山あまこだ／東　智子



牧原一路さんによるR八演奏は虚無僧スタイルで決まってます！見た目は渋いが懐かしい曲のオンパレードでした！

華はおなじみ岩田さん、加藤さんのアイドルコンビでマジックショー！

ちびっこちゃんも一緒に太鼓でドンドコドン

スタッフも利用者さんも一緒になって踊ります。練習の成果は？！

歌声喫茶えのき

♪開店しま～す♪

生キーボード伴奏が「あなたの歌に合わせてくれる」歌声喫茶♪
あなたも一度、来てみませんか？

一一月二九日、あまこだえのきの家交流室で、歌声喫茶を開催しました。

当日まで、お客様が来てくれるのかドキドキでしたが八人の方が来られ、五人、組合の仲間になってくださいました。

唱歌を中心に大きな声で歌ったり、ふいにマジックを披露して下さる方まで現れたりと、笑い声あふれるなかで楽しむことができました。

これからも、たくさんの仲間を増やし、集まった人みんなが主体的に活躍できる場を、（ホントは私が楽しみたいので・・・）作っていきたいと思います。

守山あまこだ／岩田　順子

懐かしのあの歌この歌、みんなで歌ったらこころも晴れ晴れ！

新年あけまして

子年の今年も

二〇二〇年明けましておめでとうございます。

昨年は、地球規模の自然災害で様々な被害が生じた一年でした。この状況は近年増加傾向にあり、私たちも、自然災害に遭遇する危険は常にあると意識するようになりました。

とりわけ昨年末は、ほぼ毎日、日本全国で地震報道があり、私もできる備えをしながら除夜の鐘を聞き、今年は世界中の人々が平和で安心して過ごせる一年であってほしいと、初詣でお祈りです。

ぬくもりは、今年、数年来の目標だった「小規模多機能居宅介護事業所づくり」に踏み出します。昨年末までに土地探しを終え、地域住民への説明会を重ね、春日井市の公募に立候補できるよう膨大な書類整備など着々と進めてきました。課題はまだまだ山積ですが、今から来年の開設実現に向けて、愛知高齢協全体が「ワン・チーム」となって頑張っていきたいと、新年の抱負を宣言します。

介護の仕事をしていると、日常生活に手助けが必要なたくさんの老若男女がおられ、そのご家族の支援も含め、対応の難しさに時折自信を無くすことがあります。

常にさまざまな緊張の中で活動し、終われば次の利用者宅へと車を走らせる。移動の車中も、終えたばかりの仕事を反芻し、やり残したことがないか、気づいたことはないかとあれこれ思いを巡らしながら次のお宅へ急ぐ。経験を重ねても、十人十色の利用者に良い支援ができたと思える日は少なく、反省の日々です。

新年のご挨拶が暗くなってしまったので、最近知った笑い話をお知らせして気分転換してください。

「一八歳と八一歳の違いについて」

①心がもろいのが一八歳、骨がもろいのが八一歳。②恋に溺れるのが一八歳、風呂で溺れるのが八一歳。③道路を暴走するのが一八歳、道路を逆走するのが八一歳。④偏差値が気になるのが一八歳、血圧、血糖値が気になるのが八一歳。⑤自分探しをしている一八歳、皆が自分を探している八一歳。⑥志望と動機を胸に就活するのが一八歳、死亡と動悸を胸に終活するのが八一歳。

今年も笑うことが多い日々でありますように。

春日井ぬくもり／
辻　美枝子

春日井ぬくもりから

令和元年10月20日 かかしカフェOPEN1周年 ＆ ぬくもり祭り！

かかしカフェ＆ぬくもり祭りは迫力のロックソーランで元気よくスタート！

三線による沖縄民謡や舞踊で、会場内の時間も沖縄のようにゆったりと流れてゆきました。

天気にも恵まれて、当日はたくさんの方が集まってくれました！また次回も笑顔を見せてくださいね！

子を飾って新年を迎えました

なんというかわいらしさ！

一宮まったりから

季節を感じ、楽しみのあるいきいきとした日々を過ごしていただきたい。得意なこと、できることをして参加してほしい。そんな創作活動の取り組みの一つです。

「毛糸を丸める・切って形を整える・目鼻をつくる・つける・乗せる台を編む・・・」それぞれができること、得意なことをしてもらってたくさんのねずみができました。

昨年の創作は＝絵馬・おひな様・桜の花・カブトのうろこの鯉のぼり・藤の花・紫陽花・朝顔の花・七夕飾り・干し柿づくり・コスモスの花・秋の風景のちぎり絵・干支の置物・しめ縄・おやつ＝など。詳細は愛知県高齢者生協のホームページをご覧ください。

これからも利用者さんが来所を楽しみにでき、笑顔で過ごしていただけるような取り組みをしていきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

デイサービスまったり／花木　玲子

かんたんかわいい
フワフワねずみを作りました！

毛糸をくるくると台紙に巻きます

顔やしっぽなど
パーツをボンド等でつけて
出来上がり

新入職員さん、いらっしゃ～い！

今回は高齢者生協
かけはしの3名の新入職員さんを紹介します！

石川 亜矢子さん　かけはし

昨年7月より、デイサービスかけはしに入職いたしました。人生の大先輩方にいろいろなことを教えてもらいながら、そして皆さまの笑顔にパワーをいただきながら、楽しく働かせていただいています。この出会いに感謝！！

佐久間　桜さん　かけはし

一昨年12月からデイサービスかけはしの正職員になりました、佐久間桜と申します。明るい職場の人たちや利用者さんと楽しく働いています。

未経験で日々学ぶことばかりですが、一生懸命努めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

高橋　圭三さん　かけはし

昨年8月より、ヘルプサービスかけはしのヘルパーとして入職しました。

資格を多く取得できるように頑張りたいと思います。

よろしくお願いします。

●あけましておめでとうございます。

そよかぜパソコン教室 盛況です！

私も後期高齢者のメンバーになって数年。そろそろ、なんか辻褄の合わない事言っているのではないかと心配していたら、「大丈夫よ先生」と上は九〇歳、八九歳、ほとんどの人が七〇歳代という生徒さんたちが言ってくれるので、やれやれ、このまま今年も進もうと思う新年です。

生徒さんは、ワード、エクセルは勿論、ブログ、インスタグラム、パワーポイント、メルカリと幅広く挑戦中。年末には年賀状作りにワイワイ賑やかでした。

八九歳「そろそろ出す人減らしたいけど、出さないと死んだと思われるので、やはり出そうか」。七〇歳代はまだ若い。「最近ミラーレスカメラ買ったのよ」「じゃ～、インスタグラムで写真アップして自慢しよう。つまりインスタ映えよ！」と私。話は盛り上がります。でも終わったあとのお茶タイムのほうがもっと盛り上がり、楽しいひと時です。

今年もパソコン教室、頑張って続けますのでよろしくお願いいたします。

理事・そよかぜパソコン教室講師／秋野　昌子

OPEN 岡崎かけはし

花＊はなカフェ

ずっと目標だった地域密着型のカフェ【花＊はなカフェ】を、昨年の一二月一四日（土）にオープンすることが出来ました！

開店一〇時からご近所の方が団体で来てくださり、なかなか外出できない利用者さんをお迎えに行ったり、デイサービスからもお昼の空いた時間に来ていただき、総勢二五名のご利用をいただきました。

コーヒーと、手作りケーキを食べながら、にぎやかにゆったりとした時間を過ごしていただくことが出来ました。

これから第二土曜日に継続していきたいと企画しています。どなたでもお気軽にお立ち寄りください。お待ちしております！

岡崎かけはし／野呂　洋子

コーヒーもケーキも
おいしいでねー　みんな
きてちょーだいよー

かんたん料理

白菜とベーコンのマヨ炒め

材料　【3～4人分】

白菜1/4株、ピーマン(中)2個、しめじ1パック、ベーコン100g、竹輪50g（1本）、マヨネーズ（炒め用）大さじ2、≪味噌大さじ1～1.5、みりん 大さじ2、中華だし 小さじ1≫
塩コショウ適量、ブラックペッパー適量

1.白菜はざく切り、ピーマンは乱切り、ベーコンは2～3㎝幅に切る。しめじは小房にする。竹輪は縦二等分にし、　薄切りする。

2 ≪≫内の調味料を混ぜ合わせて準備する。

3 フライパンにマヨネーズを入れ加熱する。ベーコン・白菜の葉元・ピーマン・竹輪・しめじ・白菜の葉先の順に塩コショウし炒める。

4 具材に火が通ったら≪≫を加え煮からめる。仕上げにブラックペッパーをふりかけてでき上がり。　（クックパッド参照）

東海・関西ブロック 協同労働推進会議に参加して

本部事務局／三原欣子

労働者協同組合法（以下労協法）がいよいよ法制化されるということで学習せねばと思い、今回会議にいどみました。

一日目はワーカーズコレクティブ代表　藤井恵里さんが、労協法成立までの今までの経緯を説明してくださいました。労協法のポイントとしては、外部監事の場合は組合員数三人から、内部監事の場合は組合員五人から、監査会創設なら六人から立ち上げ可能ということが重要だと思われます。少ない人数で組合が作れるので、従来よりも仕事おこしが容易になります。また、組合員は労働契約を結ぶことにより社会保障の対象になりますが、契約を結べない役員は対象から外されるということは、既存の法律に沿った形で仕方なく譲歩するしかなかったことが話から感じとれました。

午後のグループワークでは「いいとこ見つけ」が大事という意見に共感しました。「あなたのここがすごいね！」と評価することにより自己肯定感が現場を元気にさせるということです。これはどんな人間関係でも共通していえることでもありすぐに実践できることなので私も「良いと思ったことを口に出して相手に伝える」を早速始めたいと思います。

二日目は「草津みんなの家」を見学させていただきました。「児童デイサービス　もも」では施設の天井が低いため子どもたちの身体的成長に合わせて天井の高い施設「放課後等デイサービス第二もも　スマイル」に引っ越ししたという話を聞いて驚きました。子どもたちの健康・安全を第一に考え大きな出費を伴っても環境の良い施設に引っ越すなんてなかなか出来ることではないような気がします。

そして「みんなの家」の敷地内では使用済みてんぷら油をリサイクルする設備があり実際にバスやトラックなどのバイオディーゼル燃料として循環されていることも衝撃でした。リサイクルの過程は結構な力仕事で、なんと今はお一人でされているそうですけれども就労支援の仕事として使えるのではないかと模索されているそうです。

最後に映像を見ながら「みんなの家」の活動の説明がありました。特に印象深いのは夏休みイベントで児童デイの子どもたちが自分で育てたトマトを、他のパンを作っている事業所に持って行ってトマトパンにしてもらい、トマトパン以外の数種類のパンも合わせて市役所に持ち込んで販売しているという話です。一番パンがよく売れる時間帯に限定して販売しているそうですが、喋ることができない子も一緒にその場に連れていき、子ども達みんな楽しそうに声を出して売っている姿は本当に生き生きとして、見ていて涙がこぼれそうになるとお話しされていましたが、その話をしている職員さんがあまりにも生き生きとしていて私も涙が出そうになりました。

今回も生きた学習をさせていただいたことに感謝いたします。

どうもありがとうございました。

2019全国集会 in kanagawa　レポート

この全国集会、実は半年くらい前から内心とても興味を持っていました。安田菜津紀氏（フォトジャーナリスト）の記念講演を、できればぜひ聞いてみたいと考えており、また、講演のおかげで私のシリアのイメージが変わりました。

シリアは元々は世界中から大勢の観光客がやって来るごく平和な美しい国だったということであり、突然内戦が始まったのも、ちょうど東日本大震災があった二〇一一年三月のことで、思いのほかに近年のことだったという衝撃。

この話を聞いた瞬間、「平和」というものは、そこに暮らす庶民が気づかない間に、ある日突然破壊されてしまうこともあるのだと、非常に恐ろしい実感が残りました。

労協連 古村理事長と安田氏

最近の日本の社会情勢を見ても、差別と排外主義、経済至上主義と貧困、閉塞社会、政治の腐敗、農業自給率低下や環境汚染、異常気象と災害、外交と条約の問題などの一方で、そんな中でもつながれるコミュニティーを形成して支え合う行動に共鳴するグループや新たな概念を学ぼうとする人たち。

そこで各々の課題を専門分野のパネラーと共に討議するため、二〇の分科会が設けられ、愛知高齢協から藤井専務理事とケアセンターほみの上江洲恵子さんも第三分科会「外国人のくらし」のパネリストとして、地域の実情と高齢協の取り組みを報告するために参加しましたが、企業の期間従業員から地域の住民となり、やがて高齢期を迎えていく外国人の現実に、共感をもって聞き入る人が多かったようです。

パネルディスカッションを行う
藤井専務理事と上江洲さん

ひとつの分科会でも、欧米人でない、アジア、南米他からの移住者など、日本中で分断が横たわる在住外国人との関係は、とてもひとくくりにはできません。しかしその根底に通じるのは、だれもが「労働者」という同じ仲間として日本に住みながら、日本人との格差と分断をこの国の誰が何のために生み出しているのか、そのことを当の私たち日本人の多くが、いったいどれほど知ろうと「してこなかったのか」を、強く突き付けられました。

「であうつながるいのち　ちがいがおりなす豊かな未来」がこの協同集会のテーマ。改めてパンフレットを読み返しました。それを実現するには、この国に暮らす一人ひとりが何度も繰り返し考えていかねばならないのだろうと思います。

本部事務局／野中　喜代子

今月のうた

黒猫のタンゴ

原曲作　マリオ・パガーノ
日本語詞　見尾田みずほ

ラララララ　ララ

1　君は可愛いぼくの黒猫　赤いリボンがよく似合うよ　だけどときどき　爪をだして　ぼくのこころを悩ませる

(＊)黒猫のタンゴ　タンゴ　タンゴぼくの恋人は黒い猫　黒猫のタンゴ　タンゴ　タンゴ　猫の目のように気まぐれよ　ララララララ　ララ(ニャーオ)

2　すてきな君が街を歩けば　悪いどら猫　声をかける　おいしい餌にいかれちゃって　あとで泣いても知らないよ

(＊繰り返す)

3　夜の明かりがみんな消えても　君の瞳は銀の星よ　キラキラ光る黒猫の目　夜はいつも君のものさ

(＊繰り返す)

キラキラ光る　黒猫の目　夜はいつも　君のものさ
黒猫のタンゴ　タンゴ　タンゴ　ぼくの恋人は黒い猫　だけどあんまり　いたずらすると　あじの干物は　オアズケだよ　ララララララ　ララ(ニャーオ)

あるおじいの沖縄戦⑤

沖縄の苦難はなおも続いています。2019年10月30日未明、信じられない報道に飛び起きました。首里城火災。原因は配管の電線からの発火。正殿、北殿など主要建造物等、およそ4800㎡を全焼しました。しかし首里城は、その歴史の中で過去4度の火災、焼失に見舞われており、4度目の1945年のそれは、第2次世界大戦の沖縄戦でのことでした。

焼失と復活を重ねてきた首里城は、琉球から沖縄県、本土復帰への変遷の中で耐えがたい苦難を強いられても、不屈を貫いてきたウチナンチュのかけがえのないこころの象徴だったのです。

●当シリーズの本文は、沖縄県在住の城間恒人さんの手記をもとに編集を加えたものです。

アンマーウーヤーチーチークウェー

終戦直後、私は村じゅうの人からアンマーウーヤーチーチークウェー(母親にひっついたおっぱいしゃぶり）とからかわれた。母が便所に行く時もどこかへ出かける時もひっついて離れなかった。私がアンマーウーヤーチーチークウェーになったのは、戦争のトラウマから抜け出せなかったからである。

小学生になると、私はみんなからボーチラー(乱暴者）と言われるようになった。年がら年じゅう黒ん坊服（米兵の戦闘服で作ったもの)を着ていた私を、ヒンスームン（貧乏人）とあざ笑うやつには、年上の子であろうと殴りつけたものだった。

しかしそんな私を非難する村人はいなかった。それは母のおかげだった。母は当時珍しい「読み書きそろばんの出来るエリート」であったし、クリングヮ(巫女、神女）だったため、村の神事祭事になくてはならない存在だったからである。

中学生になっても私は「黒ん坊服」のままだったし、みんながズック（布製の靴）で通学するなか、手作りの草履で通ったが、そのことを全く恥ずかしいとは思わなかった。それは母の教育のおかげである。

やがて私はボーチラーを返上して読書少年になった。女子ばかりの図書委員の中で図書室の本を片っ端から読み漁った。アメリカ政府寄贈のリーダーズダイジェストで世界の出来事を読んで、政治や経済にも興味を持った。また、学校の社会科では教えてくれない琉球歴史を知るようになり、私の反骨精神はますます強くなっていった。

遡って一六〇九年、琉球が薩摩に侵攻されて以来、四〇〇年余りも日本国から「部落民ウチナンチュ」として野蛮人扱いを受けてきたが、その典型が一九〇三年に大阪で開かれた※物産展であった。当時日本国は、生身の琉球人、アイヌ人、朝鮮人を檻の中に入れ「下等民族」として展示表示して見世物にしたことがあった。沖縄はそんな差別の歴史を背負ってきた。

私の父は貧乏百姓の子で小学校にもろくに行かせてもらえなかったが、村一番の働き者で力持ち、村祭りの相撲大会では負け知らずだったから母と結婚できたといい、そんな母に畑仕事はさせられない、床の間に飾っておきたい、というほど大切にした。夫婦はいたって仲が良く、一二人の子どもに恵まれた。しかし私の母は戦争でまたたく間に夫と七人の子どもを喪った。戦後の食うや食わずの生活の中、母は慣れない畑仕事も、親戚の手伝いをしながら教わった。そして「貧乏人には学問だけが財産なんだ。」と言って、私を大学に行かせてくれ、九二歳まで生きた。

私は、四八年前、沖縄を捨てたときのことを思い出す。佐藤、ニクソン会談で「米軍基地存続のままの返還合意」などに沸き返ったウチナンチュを見た時、自分がウチナンチュであることが嫌になったのだ。復帰後の沖縄は予想したとおり、国政に巻き込まれた分断でしかなく、日米両国の新たな、沖縄に対する植民地支配の始まりだった。

※物産展…明治三六年(一九〇三年)に大阪で開催された「第五回内国勧業博覧会」で、「北海道アイヌ五名、台湾生蕃四名、琉球二名」などとして、学術人類館で展示されたという著しい人権侵害、差別の問題。

グスク跡（世界遺産）